浄土　第71巻 2 号（毎月 1 回 1 日発行）平成17年 2 月 1 日発行　昭和10年 5 月20日第 3 種郵便物認可

浄土

monthly JŌDO

February·March 2005

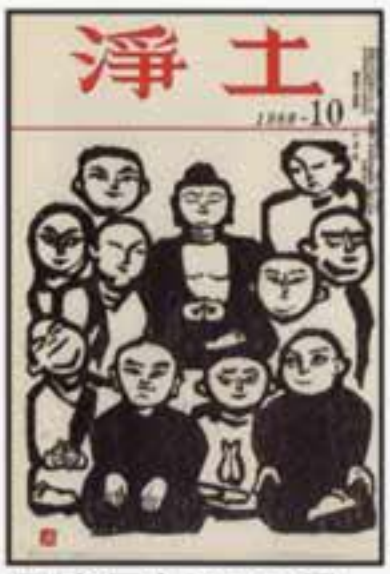
2·3 合併号

法然上人鑽仰会

月刊 浄土 もうすぐ800号

特別企画［表紙ライブラリー］

平成元年9月号



平成元年10月号

平成元年11月号

平成元年12月号

平成2年1月号

平成2年2月号

平成2年3月号

平成2年4月号

平成2年5月号

平成2年6月号

平成2年7月号

平成2年8月号

平成2年9月号

平成2年10月号

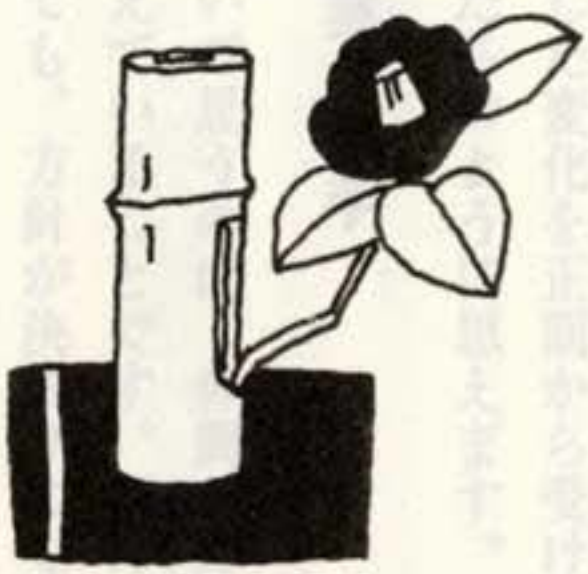
平成2年11月号

平成2年12月号

浄土

2005/2·3月号　目　次

若者と向き会って ……吉田博子　2
今、改めて一葉さんを想う ……伊川浩史　8
熊野古道を行く　第二回 ……森　清鑑　14
法話コラム ……大室了皓　23
会いたい人　篠田正浩② ……関　容子　24
響流十方 ……小村正孝　32
シネマ随想 ……袖山榮眞　36
日本酒のことば 日本酒のじかん ……藤原理加　40
Ｊフォーラム ……　43
浄土誌上句会 ……選者＝増田河郎子　44
マンガ『さっちゃんはネッ』……かまちよしろう　47
編集後記 ……　48



表紙題字＝浄土門主　中村康隆猊下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

若者と向き合って

聴く力をゆたかにもつことが大人に求められている

淑徳短期大学
社会福祉学科教授
吉田博子

ある日のこと、卒業が近づいてきたがまだ進路を決められない、就職活動をする気持ちも湧いてこないと学生（Aさん）が話しかけてきました。数日前、Aさんは両親に就職試験を受けていないことを打ち明けたそうです。父親は「納得する人生を歩みなさい」「後悔しないようにじっくり考えて結論を出しなさい」と励ましてくれたが、母親は「学んで来たことを生かしなさい」「資格を取ったのであれば、それを生かす仕事を選ぶのが当然でしょう」という返事であった。二人の意見は正反対であった。「後悔しないように納得する人生を歩みなさい」と言われても、「資格を生かす仕事を選びなさい」と言われても、親のどちらの期待にも添えそうにない。親の言うようには頑張れない。やる気はわかず、ますます悩みが深くなっている。卒業後は生活費程度は家に入れたいと思うが、お金を目的として就職することにも、目的なくフリーターをすることにも抵抗がある。自分らしく納得できる進路を選びたいと焦るものの、気持ちが動かない。どうしたらいいか分からない、ということでした。

若者たちはそれぞれに自分らしく生きたい、自分を輝かせて生きたいと願っています。しかし、その一方で、自分らしく生きるとはどういうことかを見出せないでいる人が増えているように思います。

従来の日本社会は、同じ言語を話し、同じような体験をし、同じ文化や価値を持つ横並びの社会・同質社会でした。この状態が長く続いてきました。そのため、世間一般の考え方、生き方を強いられることもありました。やりたいことを諦めることもありました。

しかし現在では、多様化が進行し、従来の同質意識や横並び意識が崩れ始めています。個人主義も進行しています。Aさんの父母の意見が二つに分かれているように、社会の価値観が急速に急激に変化しているのが現状であり、こうした変化を正面から受けて悩み苦しんでいるのが若者たちのように思えます。

●仲間との共同作業が苦手

若者に向き合っていて思うのは、仲間との共同作業を苦手とする人が増えていることです。みんなで何かを創り上げようとしても、方針が決まりにくく、良いアイディアがあっても自分の考えを表明しない傾向が

あります。他の人と違うこと、その場の空気から外れることを怖れてしまうようです。こうしたらもっと良くなると思っても「仕切りすぎ」と言われることを怖れて、ついつい自分の言葉を飲み込んでしまう傾向が認められます。飲み込むことが多くなればなるほど、自分らしさを失う不安、自分らしさを発揮できない追い詰められ感を強めているようです。共同作業が始まっても動きが悪く、誰かに指示されるのを待つ姿が目立ちます。結果として、共同作業の質は低く、成功しても大きな喜びは得にくいようです。これが今の若者の抱えている問題のように思います。

こうした傾向は従来もありましたが、何かが違うように思えます。それは、成育過程で不快体験や傷つき体験をしてきた人、それを引きずっている人が多いということでしょう。人と人のふれあいの喜びや楽しさの体験の少なさが、共同・協働を生まれにくくし、ごく少数あるいは一人で作業することを選ぶ若者を増やしています。

人間関係の希薄化をのりこえること、コミュニケーション能力を育成することが緊急課題になっています。

●コミュニケーション能力を高めるとは

コミュニケーション能力というと難しそうに思えますが、忘れてならないのは、コミュニケーションcommunicationという語には〈com＝共に〉がついていることであり、本来は〈to make common＝共感・共有を成立させる〉という意味を含んでいることです。つまり、コミュニケーションとは、うまく話をすることだけでは不十分で、聴くこと、共感すること、共有することを通して、相手をふれあいで包むことであり、相手の意欲や勇気を引き出し、その人が自らを深く見つめることを可能にすることなのです。人間関係は人として豊かに生きていくうえに最も大切なものです。人との関わりから安心感が生まれます。人に受け入れられ、理解されていると感じられる時の安心感は私たちをしっかり支えてくれます。

聞き上手は話し上手というように、聴くとは、相手の気持ちを大切に受け止めることであり、相手の気持

ちに心を傾けて聴くことです。コミュニケーション能力を高めるには、まず、相手の話を聴く力を高めることが要になります。

●リスニングマインド（心を傾けて聴くこと）

Aさんは両親に相談したあと、かえって無力感に襲われるようになっています。なぜ、そのようなことになったのでしょう。

多くの場合、相談を受けた側は、良いアドバイス・役立つような助言をしなければと思います。Aさんの両親もそうでした。しかし、Aさんがもらった助言は、Aさんには分かりすぎるくらい分かっていることであり、出来ることならそうしたいと思っている内容でした。結果的に、Aさんは何も出来ない自分を責めるようになってしまいました。

ここで考えなければならないのは、Aさんが求めていたものは何であったのかということです。Aさんの悩みは意欲がわかないことであり、動き出せない自分が問題なのです。Aさんのように自分の気持ちが見えない、動き出せない時に必要なのは、自分の心を映す鏡になってくれる人です。「こうしたらいい」と説得するのではなく、「あなたならできる」と激励するのでもなく、不安な気持ち、迷い、自信のなさをそのままに受け止め、理解してもらうことなのです。「よく話してくれたね」「なぜそういうふうに思ったの」「もうちょっと分かるように話して……」とAさんの気持ちを受け止め、Aさんの考えるスピードに合わせて耳を傾けてくれる人がいることなのです。さらに、浮かび上がるAさんの気持ちを捉え、それをAさんにフィードバック（返す）していくこと、それを通してAさんが自分の気持ちを見つめなおす過程を支えることが必要なのです。人に受け入れられ、理解されていると感じることは、安心感をもたらします。安心感はAさんを支え、心の安定を得ることにつながります。また、安心することで、困難に立ち向かう勇気が出てくるのです。

助言をもらっても、指示や命令をされても、結局のところ最後に結論を出し、動くのはその当人です。回り道のように見えても、Aさんの気持ちが動くことが大切であり、自分で自分の気持ちをつかみ、自らの力

で問題解決に向けて歩みだすことが大切なのです。心を傾けて聴いてもらうことは、Aさんの問題解決力を引き出すことにつながるのです。

●どのような力を育てるのかを意識すること

コミュニケーション能力は、幼い頃の大人とのやりとりを通して学び始め、大人をモデルとして、話す、聴く、共感する、共有することの基礎が築かれます。いま、大人の顔色を見て行動する子どもの増加が問題になっていますが、子どもに問題があるのではなく、明らかに子どもを取り巻く大人の側に問題があるのです。日常の子どもとのやりとりを通して、大人は子どもにどのような力を育てようとしているのかを見つめなおす必要があります。

例えば、「あれ買って」と子どもにせがまれた時、「また今度ね」というあいまいな対応をしたり、「今日はだめ」と頭から抑えることがありますが、こうした対応では不十分です。子どもは自分の欲求や言い分が通らないという不満を募らせることになります。

この場面では、「なぜ?」「どうしてそう思うの」と聞き返し、「なぜ欲しいのか」「なぜ、今買わなければならないか」の説明を子どもに求め、子どもの説明にしっかり心を傾けて聴いて下さい。幼い子どもなりに「なぜ?」を説明しようとするでしょうし、説得できなければ買ってもらえないと思えば、幼いなりに自分の気持ちを整理して話そうとするでしょう。また、自分の気持ちをわかりやすく伝える力、誤解のないように伝える力をつけていくことになります。「あなたは〜と言ったけれど、……だから、買わなくてもいいと思う」と反論されるとなれば、子どもは相手の意見や考えをしっかり聴こうとするでしょうし、その姿勢も、交渉する力もつくことになります。自分の説明が認められて買ってもらうことができたならば、その喜びは数倍になると思います。たとえ買ってもらえなくとも、理解しようと努力されれば、大切にされていると感じることが出来ます。自分の思いを上手に聴いてもらえば、混乱している心も整理されます。安心感も得られます。自分の気持ちの抑え方を学ぶことにもつながります。

日常のさまざまなやりとりを通して子どもに何を育

てようとしているかを考え、自分の欲求や意見を相手に伝える力、相手の意見をしっかり聴く力、交渉する力を意識して育てることが長じてからのコミュニケーション力につながります。幼い頃の大人とのやりとりはコミュニケーションを学ぶ上で、貴重な学習をする機会です。これを無駄にしたくはないものです。

●素直に自分を開示できるナナメの関係

ヨコでもタテでもない、ナナメの関係が大切になっています。ここでいうナナメの関係とは、さまざまな気遣いや利害を離れて、素の自分、駄目な自分、弱い自分を素直に開示できる関係、偽らない自分を見つめることにつながる関係をさしています。指示・命令・叱責・説得・助言・懐柔が主となる関係ではなく、相手の気持ちを尊重して聴く関係、共感と共有のある関係であり、思い悩んでいる若者の心を活性化し、問題解決の力を引き出し、よりよい生き方ができるように関わっていく関係のことです。近年、ヨコの関係（＝友人関係）が危うくなっています。相手を傷つけないよう気分を害することがないよう気づかい、相手に合わせて行動することが増えています。自らの防衛を解き、素直に自分を開示できる、飾らない自分を語ることができる関係があることがこれまで以上に重要になっています。時には親であることを離れて、子どもや若者とナナメの関係を築いて、傷つきやすくなっている子どもや若者の心を受けとめ、しっかり心を聴いて下さい。

人との関わりは、その人の生涯にとって、人として豊かに生きていくうえで最も大切なものです。多くの方が若者とナナメの関係を築いて下さることが求められます。自分らしい生き方を求めている若者に自分を見つめる機会を与え、勇気を与えることになると思います。

よしだひろこ　淑徳短期大学・発達心理学
日本教育カウンセリング学会理事、上級カウンセラー。臨床発達心理士。幼児教育と発達心理学を研究。著書に『人間の発達過程』（明治図書）、『わかりやすい仏教保育内容総論』（チャイルド社）などがある。

今、改めて一葉さんを想う

伊川浩史

私の寺は、東京は本郷の東京大学赤門の真正面にあり、昨年登場した新五千円札の樋口一葉のゆかりの寺、法真寺であります。

既に皆さんご存知の通り樋口一葉は、明治時代に活躍した女流作家で、貧しい家計を自分の筆一本で支え、二十四歳と八ヶ月という若さで逝った人です。本名は「奈津」といい、「夏子」と自署することもありました。明治五年に現在日比谷シティーのある場所で生を受け、その後転々と引っ越しを繰り返したのです。

一葉さんの身長は五尺といわれていますから、大体百五十センチ程度で、色白の整った顔で目元には少しそばかすがあったそうです。一重まぶたで極度の近眼のためか、目がきらきらしていたそうです。

若い一葉さんゆえ決して関心がなかった訳ではないと思いますが、いつも地味な服を着て、白粉もつけないでいたそうです。但し、口紅は女のたしなみ程度にはさしていたそうです。好き嫌いはなく、「おごりがいが無い」と言われたほどの小食で、暇さえあれば洗濯や針仕事をしていたそうです。執筆で疲れていても、好んで母の手足を揉んであげたりと、とても親思いの人でした。いつも穏やかで礼儀正しく、どんなに辛くても、それを顔に出さない人だったようです。（『樋口一葉と歩く明治・東京』小学館）

明治九年四月、樋口家は私の寺法真寺の東隣りに引っ越してきたのです。本堂に向かって左手、今は駐車場になっている場所にあたります。その時一葉さんは五歳で、それから十歳までの間をこの場所で過ごしたのです。そこは一葉さんにとって四軒目の転居先で、木造倉庫つきの建坪四十五坪、総面積二百三十三坪の屋敷でした。当時、警視庁警視属になった父規義が、その時のお金五百五十円で購入したと言われています。その頃父親は事業を拡大し、不動産売買や投資貸し付けで財を築いていたのです。

その時分は、姉、妹、二人の兄、そして両親と一家そろっていた時期であり、経済的にも家庭的にも一番恵まれ、幸せな時期であったのです。そんな時期に法真寺の若い僧とよく境内で遊んだそうで、その若い僧が『たけくらべ』の真如のモデルともいわれ、一葉さんの初恋の人であったそうです。（一葉晩年の回想日記より、和田芳恵氏談）

当時から法真寺には桜の木があり（現在のは二代目ですが）、一葉さんは家の二階の窓からよくその桜の木を眺めていたそうです。それで晩年ここを「桜木の宿」と呼んで懐かしんだのです。「かりに桜木のやどといはばや、忘れがたき昔しの家にはいと大いなるその木ありき」と、亡くなる直前の明治二十九年初夏に病床で書いた雑記『詞がきの歌』の中で言っています。そしてまた一葉さんは『ゆく雲』の中で、「腰ごろもの観音さま、濡れほとけにておはします御肩のあたり、ひざのあたり、はらはらと花散りこぼれて、前に供えししきみの枝につもれるもをかしく」と、春の法真寺の情景を描いております。現在この観音さまは本堂の横に移っていますが、お姿は当時のままです。この観音さまは明治時代には柳原二位の局が、大正天皇ご安産のご祈願にご参詣されていたと言われています。春に咲き乱れた法真寺の境内の桜は、「私は娘時代と云うものを知らない。子供からすぐ大人になった」と語っていた一葉さんにとっては、唯一幸せだった子供時代の象徴であったと思います。

父親が事業に失敗し、さらに十七歳でその父を亡くし、その莫大なる借金を抱え、戸主となって一家を支え、菊坂、台東区竜泉、丸山福山町と住居を転々としながら、波瀾万丈の中にその短い生涯を閉じたのです。

私の寺では、そのようなご縁を頂いておりますので、毎年十一月二十三日の一葉さんの命日には「文京一葉忌」という催しを行い、

法要後に毎年幸田弘子先生の朗読や、その年によって違う講師の先生方（去年は作家の荻野アンナ先生）が講演をしてくださいます。その後境内では、寮歌祭の方々が旧制高等学校の寮歌を歌われ、また同時に、一葉さんゆかりの地の史跡を歩いて巡ります。「文京一葉忌」も昨年で二十五回目を迎えることができました。

一葉さんに関しては、いろいろな学者の方がそれぞれの思いで一葉さんを語っています。作家としての人生も非常に短かったにもかかわらず、アメリカなど海外の高校などの「世界の文学」という講座の中にも、その名前を見ることが出来るのです。またアメリカのミシガン大学などでは、ロバート・ダンリー教授が英訳を手がけ、多くの学生さんが一葉さんの作品を学んでいるのです。

私は一葉さんの文学を通した世界も確かにすばらしいと思いますが、桜木の宿ゆかりの寺の住職としては、頭だけではなく、心で一葉さんとふれあい、感じ取って頂きたいと常常思っております。つまり明治の偉大な作家としてだけではなく、一人の女性としても触れ合って頂きたいのです。私は一葉さんが二十四歳という若さでお亡くなりになっているのにもかかわらず、更に若く幼い日々を振り返って懐かしむということは、本当に苦労なさったのだろうなあとしみじみと思うのです。

今でこそ自立している女性は大勢いますが、その当時、しかも若い娘さんが自分の筆一つで家族を支えなければならないプレッシャーは、本当にきつかっただろうと思います。人として生まれたら、年頃になって恋心を抱くのは当たり前です。だけど一葉さんは忍ぶ恋しかできなかったのです。小説の師であった半井桃水への耐え忍ぶ恋などは痛ましささえ感じます。「どうして私の人生はこんな人生なの？　私だけこんな目に遭わなければいけないの」と感じたと思います。しかし、礼儀正しく、清貧に生き、親孝行だった一葉さ

んは、その立場を受け止めざるを得なかったのです。一葉さんは父親の事業が失敗して、本当に若い娘さんの時から「娑婆世界の無常」を身をもって体験されたわけですが、周りの幸せそうな家族や、同世代の女の子をどんな目で見ていたのでしょうか。何時何が起こるかわからない、それが娑婆世界です。そしてそこでは全てが壊れゆくものなのです。だから無常と呼ばれるのです。今までの生活が一変する、良い方へ一変するのなら楽だけれども、生活水準が下がる一変は分別のある大人にだって耐え難いものです。それでもなお明るく生きようとした一葉さん、とてもけなげ且つ不憫に思います。

ある末期ガンに冒された患者さんが、「最初はこの状態から何とか助かりたい、逃げ出したい、と思ったけれど今は、何とかうまく癌とお付き合いしていますよ」と仰っていた。そのことばと一葉さんがどういう訳か重なって思えるのです。ありのままをありのままに受け止める。簡単なようで実に難しいことであります。

お釈迦様が「自分の力の及ばないことに執着をすると苦しみになりますよ。生まれてくることだって、年をとることだって、病気になることだって、死んでゆくことだって、みんなそうでしょう」とお説き下さっています。しかし私のような者は、自分でどうすることも出来ないものに心を奪われ執着の心を起こしてしまうのです。まさに貪欲（どんよく）の心です。頭ではわかったつもりでも、私の貪りの心は、その貪りが叶わなければ怒りとなって自分や周りに襲いかかります。道理のわからぬ実に愚かな姿であります。

昨年一葉さんが五千円札になって「お金で一番苦労した一葉さんがお札になったのは、何とも皮肉な話だ」とよく言われます。お金は毎日使っていますが、意外とじっくり見たことなど無いのではないでしょうか。昔の一万円札誰だっけ、とか、前の千円札誰だっけ

とか。まるで私たちの心のようです。毎日使っていて大切なものだけれど、意外に知らないし、気にも留めていないのです。笑ったり、怒ったり、何時も心は私たちに寄り添っているけれども、あまり改めて自分の心を見つめることが無いというのと同じことではないでしょうか。

私は一葉さんゆかりの寺に生まれ育ってきたので、一葉さんを近くに感じるのは当たり前なのかもしれませんが、改めて一葉さんを見つめ直したとき、もし一葉さんが何時も近くにいる友達の一人だったら、どんな友人になるだろうと時々考えます。一緒にお酒を飲んだらどんな話をしてくれるのだろう、小食といわれた一葉さん、どんな食事が好きなのだろうか、等々です。そうすると一葉さんがもっともっと近くに感じる気がします。笑ったり、怒ったりする、街にいる普通の女の子に還った気がしてきます。

今一葉さんは阿弥陀様のお浄土で、阿弥陀様や家族友人に囲まれて楽しみを享受されていることでしょう。西の彼方十万億土の仏の世界を超えたところに、阿弥陀様というほとけ様がいらっしゃり、お浄土は苦しみが無く楽しみだけの世界だから「極楽」というのだと『阿弥陀経』に書かれています。そこに永遠の命を受けたものは、退転して生まれ変わり死に変わりはしないのです。そして阿弥陀様によって阿弥陀様と同じほとけ様に育てていただけるのです。一葉さんもその浄土にいらっしゃるのです。私は浄土宗の僧侶としてなんと尊いご縁を結ばせて頂いたことでしょう。

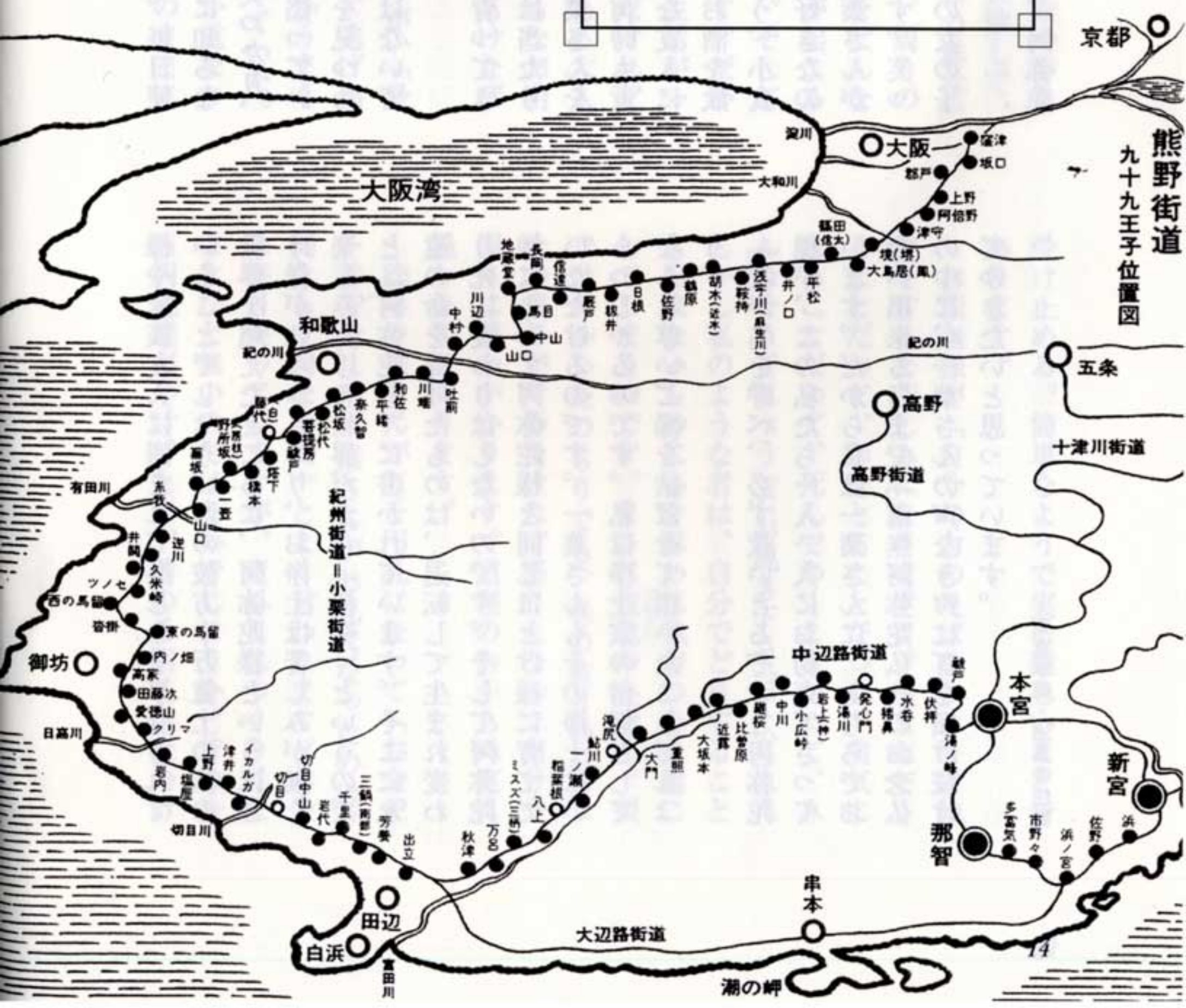
「我が名を呼べ、必ず救いとるぞ」と阿弥陀様が、この私たち一人一人にお約束下さっています。だから私は一葉さんに、あちらでお会い出来る日まで「南無阿弥陀仏」のお念仏の中に、一葉さんの声なき声に耳を傾け続けてゆきたいと思っています。

東京本郷・法真寺住職

熊野古道を行く

第二回

森清鑑



大阪湾、和歌浦湾沿いに南下

泉、岸和田から藤代王子へ

古道は堺から和泉、**岸和田**を抜け、**佐野**に達する。佐野は中世に非常に栄えた商業地帯で現在とは隔世の感があったに違いない。佐野王子跡は古道沿いに石碑が建っているのみである。この辺りから田園地帯になり南東遥か遠くに熊野を貫く果無山脈が眺望できる。のどかな田園の中を歩くことしばし、**樫井川**に出る手前に突如、古道南東側の道沿いに住宅に囲まれた墓が出現する。これが、塙団右衛門の墓である。私が中学生の時分にさかんに読んだ講談でお馴染みの、あの豪傑の墓がこんな所に在ったのかと急に当時の思い出が甦った。彼は豊臣方の武将として大坂夏の陣に参加、約二百名の部下と共にここで戦死を遂げた。塔の中央の丸石になにやら口を「への字」に結んだ人の顔ごとき文様があり、豪傑団右衛門の悲劇的な最期を想起させるものがあった。そのちょっと先に今度は地元の武将淡輪六郎兵衛の墓がある。彼もまた同じくこの戦場で散った。一九六四年建立の三五十回忌を奉る宝篋印搭もある。二人の墓の途中西北沿いに奥家がありその庭に籾井王子（樫井王子）の石碑が建っている。平安時代にはおそらく大きな社が建っていたのであろう。今はその縁を偲ぶこともままならない。しかし、この辺りの古道風景は昔の面影を残している。江戸時代の古民家が建ち並び、独特の瓦屋根に見とれる。ほどなく樫井川にぶつかる。橋のふもとに**大坂夏の陣樫井古戦場跡**の巨大な石碑が建っている。慶長二〇（一六一五）年かの有名な大坂夏の陣の初戦がここで始まった。ちょうど四月の晴れ晴れとした陽気で広々としたのどかなこの田園風景が戦で血に染まったのである。この辺りの古道から小栗街道の道標が目につく。小栗判官の名になじむ古道の別名である。橋を渡って程なく、

◆大阪夏の陣樫井古戦場跡

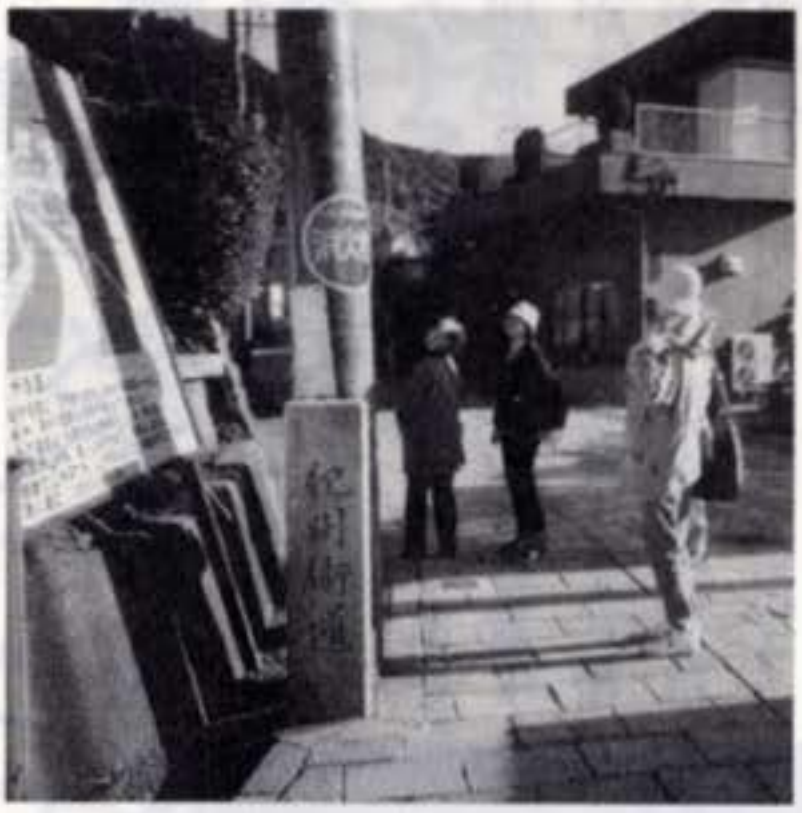
◆塙団右衛門の墓

ゆるやかな坂道を上がると右手にいささか広大な一岡神社の敷地があり、海会寺跡の大きな案内板が建っている。

発見された**海会寺**大伽藍の礎石は平然と並んでいる。この寺の発見と発掘は法隆寺建立に匹敵する歴史上の波乱を巻き起こしている。行基が建立したとされているが、彼は帰化人を束ねた人物であるらしい。ここでまたぞろ、新羅と百済の闘争が話題に登場する。朝鮮半島から、はじき出された人々ははるばる日本に来て、進んだ文化を提供し、溶け込んでいく。この帰化人達の闘争は鎌倉時代まで続く。そしてようやくにして日本文化の源流が出来上がってきたのだと見られる。海会寺は法隆寺以前に完成した、彼等のシンボルであったのかも知れない。ともあれ、この大礎石の発見は古の文化波及の証左を眼前に髣髴とさせるのである。しばし、礎石の上に佇み、空想に耽った。

海会寺跡を出て田んぼの畦道を進むと、**厩戸王子**があった。恐らくは当時の重要な輸送手段である馬小屋があったのだろう。石碑だけが建っているがいくつかの屋号が残り、嘗ての面影を残している。後鳥羽院を迎えた旧本陣跡もある。今ではのどかな田んぼ道だ。いよいよ古道は紀州街道に入る。紀州の殿様が参勤交代で練り歩いた道である。道幅も往時の面影を残し、四メートルはある。石畳は整備され、その周囲には古宿が建ち並んでいる。まるで時空を超えた感慨が襲う。江戸時代に逆戻りしたようだ。

◆これより紀州街道



ほどなく**和泉鳥取**にでる。この地名は狩猟を専門業とし獲物を皇族に献上する一族、鳥取氏の発生源なのである。山中橋を抜けると、左手に地蔵堂王子跡がある。そして江戸時代の旅篭がそのまま残されている山中宿だ。その昔、山中渓は古道最大の難所であった。山と山に挟まれ、深い谷底には山中川が走っている。近くに鎌倉時代の関所跡がある。そして塞の神が祭ってあった。町に疫病を入れない神でこれと懸けて要所を護衛する役目の佐伯氏が誕生した。全国にある佐伯氏はここから波及しているのである。また、この山中宿は坂本竜馬が助手をした、日本最後の仇討が行われた舞台でもある。古道筋の庄屋屋敷の瓦が美しい。

この日はこの山中宿を終点に**和歌山城**前のホテルに宿をとった。日没近くの和歌山城天守閣はすでにライティングに彩られ、優美な光を放っていた。もとは、藤堂高虎が秀吉の命で造り、秀長の居城であった。徳川になってからは、初代頼宣がここを治めた。城は戦災で消失したが、復興されその面影を良く残している。天守閣の麓に登ると和歌山市を眼下に一望できる。紀ノ川が蛇行している様が夕日に映える。平安・鎌倉時代には和歌浦湾がせり出ており、現在の和歌山市の大半が州の状態で、ゆえにその美しさは望外のものがあったらしい。現在はコンビナートなどができて全く異なる様相を呈している。

山中渓からいくつかの王子社を抜け、紀ノ川を渡り、布施屋（ほしや）を過ぎると和佐王子跡がある。石碑の近くに京都三十三間堂の通し矢で最高記録を達成した著名な弓取り、和佐大八郎の墓がある。彼こそは過去に和歌山が生んだ最大の英雄といって良いかもしれない。大八郎は現代で言えば大変気丈な教育ママに鍛えられて育った。身長一メートル九〇センチの偉丈夫。なにしろ三十三間堂の通し矢は、縁（廊下）から天井までの高さが僅か五メートルしかなく、縁の幅は、一一・二メートル。

しかも一二〇メートルもある距離を射通さなくてはならない。三十三間堂は、直線的な美を誇るが、建築なのだから凹凸の装飾物もある。となると自ら描いた、非常に「狭く、低く、長い」箱型のトンネル・イメージ空間をどこにも触れずに矢を通過させねばならないということになる。ということは、矢はほとんどライナー状態で飛ばさなくてはならない。この競技環境ゆえに片膝を縁につき射る。それで彼は一万三千五十三本も矢を放ち、八千百三十三本を通したというのだから「凄い」の一語である。「大矢数」と呼ばれるこの競技は、暮六つ（午後六時）から翌日の日暮れまで二十四時間ぶっ通しで矢を放つという豪快・壮絶なもの。和佐大八郎の記録は、昼夜分かたず毎分九本、六・六秒に一本の割りで弓を射たという驚異的なものなのである。しかし、これは平均値であって、食事・トイレなどの時間も必要であったと思われるので、現実にはさらなる速射が要求されたことだろう。オリンピックの競技種目であれば間違いなく金メダルだ。無論、彼の記録は、二度と破られることはなかった。紀州藩二代藩主徳川光貞がわざわざ出迎えし、三百石を与えたのも頷ける話である。

和佐王子跡からさらに行くと、武内宿跡（タケノウチスクネ）神社がある。ここはタケノウチスクネの生誕地とされる所で、誕生の井が残されている。彼は五～十代の天皇に仕えたとされる重臣である。こうしたことからも、古代文化の息遣いを感じさせる。矢田峠から右手眼下に紀ノ川平野のすばらしい眺望を味わいながら、さらに行くと小栗判官の腰掛石や神武天皇が蜘蛛を退治したという伝説が残る蜘蛛池を通り、松代王子、菩薩房王子を経て小高い丘を登ると、いきなり石碑があった。これが**祓戸王子**である。鬱蒼とした変哲も無い森に過ぎないが、いよいよこれより本格的な熊野参詣の旅が始まるという、平安の旅人にとっては重要な入り口であった。

◆山中宿案内板

◆山中宿江戸時代の宿場

身を清め、おはらいをして人々は難行苦行の山路を辿ったのである。藪を下りて見上げてみると確かに今は形だけの鳥居があり、この丘一帯に王子社があり、右手は和歌山の美しい水辺で人々は心も洗われ、神聖な気持ちになって山を登り始めたのに相違ない。祓戸から藤代王子社までの道のりは現代では民家の連なる、平凡な、どこにでも見られる坂道にすぎないが、昔は大層、険しさを予兆させる山路であったに違いない。何百年も廃れた、熊野巡礼がごく最近不死鳥のように盛り返してきたために、古道沿いの民家も協力し、それぞれの門の前に「熊野古道」の提灯がかけられている。

坂道をしばし歩くと、路が切れ、竹やぶと畑を突っ切る。再び昼なお暗き森の中を古道は巻いて上がって行く。ややあって視界が開け、古色蒼然たる、威厳に満ちた、クスノキの大木に圧倒される。鳥居を潜ると左手に小社があり、**藤白神社**の由来が記されている。

その前に、再びクスの大木が並び、参道へと誘導する。大博物学者南方熊楠の命名の由来になったクスノキとある。彼を知った中学生の頃、妙な名前だと思ったが、ここに来てみると、それはいささかも奇異な感じがしない。定家が後鳥羽上皇にしたがって、熊野詣をした際に、すでに樹齢千年を超えるクスノキがあったと記しているから、今現在のクスノキはそこからさらに八〇〇年は経ていよう。いずれにしても人に比べてなんと長寿命なことか。しかも、この木はこれから先、我々が死して後、数百年も生きて存在し続けるのだから、まさに御神木に値する。一〇〇メートルもある参道を行くと左手に藤白神社はある。現在は藤白だが、昔は藤代だ。この変化の名前の妙は、古道を歩くと他にもいくらも見当たる。いずれにせよ、その名は「フジが多く咲き、しかも花の白さは類なし」からきているという。**藤代王子**は云わずと知れた五体王子のひとつで上皇も他の権力者もここから熊

◆庄屋屋敷

野の果無山脈に入る準備をする。そうした意味でも被戸でおはらいをしたあと、この王子の持つ意味がわかる。一行は京の都から文化を運び、ここで披露した。京舞、おかぐら、歌を奉じ、上皇一族郎党が来るということは文化そのものを持ち込むことになり、土地の人々にとっては極めて盛大な催し物となったのである。社は古風で威厳があり、往時の面影を残しているが、とりわけその鳳凰の見事さは他に例えようもない。社に向かって右手にはあの悲劇の有間王子を奉ってある。藤代王子を出るといよいよ藤代峠の難所にさしかかる。すこしいくと、右手に看板があり、「藤代墨発祥の地なり」の看板が建っている。そこから右手に藪の中を下りて行けば、墨屋谷である。またも、文化の担い手である、硯と墨の発祥地である。古道沿いでは、こうしたことは驚くに値しないほどごく普通に出くわすのである。

もうひとつ、藤白神社の裏手を降りると、**鈴木屋敷**がある。鈴木氏は代々藤代王子の神主の家柄で、全国で尤もその名が多い、「鈴木さん」の発祥の地でもある。稲穂が浣刺と生育した状態が「穂積」で重く垂れ下がった状態が「すずき」なのである。神官であり、しかもこうした縁起を担いで全国にその名が広まった。遠く関東に名前が広がったのには、もうひとつ理由がある。鈴木三郎重家は義経の家来であった。彼は頼朝に追われた義経に従って衣川の館で名誉の戦死を遂げているのである。当地には鎌倉時代の鈴木屋敷図があり、そこに描かれている屋敷と庭園は今も残

◆藤代神社の楠の大木

っている。無論、屋敷はいくどもつくりかえられてはいるだろう。しかし、縁側の前の庭園はそのままである。屋敷は決して大きくはなく、鎌倉時代の質実剛健さを残している。ここで昔の人々の質素な暮らしむきを窺い知ることができる。当時、庭がある家など滅多にあるものではない。水の流れと島と岩と盆栽風の古木から人々の自然との一体感が感じられる。屋敷の前に義経の弓掛松の木が立っている。それは苗木に等しいが三代目ということだ。義経は度々この鈴木邸を訪れているのである。

前に記した墨発祥の看板からすぐに**有間皇子の墓**がある。皇子は熊野詣に行き、本宮参詣の後、引き返してきたこの藤代王子のすぐ傍で中大兄皇子の陰謀により首を絞められ暗殺されたのである。時に十九歳であった。およそ一三〇〇年前の出来事である。有間皇子には野望があったわけではないらしいが、彼の父君は、位は高いが、金と権力は持ち合わせていなかった。しかし、中大兄皇子にとっては邪魔な存在で己の野望の前に誅殺に踏み切ったのである。中大兄皇子は大化の改新をやり遂げるだけあって、相当なつわものであったらしい。きれいごとではすまされぬ歴史の一端を示している。およそ、経済と権力を持つ者はこうして成り上がっていくのである。この運動法則は現代に至るも変わりがない。

さて、現代の藤代路は時折狭く、荒れ果てもいる。しかし、往時は上皇、女官の輿を担ぐため、道幅は最低三メートルほどはあったと見られる。近在の百姓は農閑期に狩り出され路の整備に当った。ゆえに、上皇の熊野詣も常に秋に挙行されたのである。藤代峠までの十八丁は急な道筋で定家も「よじ登る」と表現している。尤も、この詣旅で、彼は体調を崩した上、よほど、基礎的な体力が欠けていた節が見える。愚痴ばかり記している趣が無くもない。江戸時代には僧、全長が一丁ごとに丁石地蔵を配備した。現代から見れば、

◆鈴木屋敷古図

それは小さな素朴な地蔵で、路沿いの岩壁に立っている。その当時は専門の籠屋が存在しており、彼らはこの地蔵ごとに運賃を設定し、すばやく算出したという。ともあれ、その地形はところどころに切り通しのようなものも見え、筆捨松のごとき伝承も数多く残っている。竹林の林が多いがこれが天然植生のものかどうかは分からない。十八丁を一時間半程度登って、峠に到達する。そこには巨大な宝篋印搭がある。これは十五世紀前半の作だそうで、規模は国内最大級だという。我々は地蔵峰寺の右手を登り、御所ノ芝と呼ばれる小さな観覧席に出た。ここからは和歌山市が一望できる。確かに見晴らしこれにすぐるものはない。遠くに和歌山城が見え、コンビナート、紀ノ川の蛇行、そして街がパノラマのように眼下に広がる。平安の御世、上皇一行もこの小さな広場に集い、その美しさに見惚れたという。確かに、当時はほとんど和歌浦湾の入り江で広大な州の美しさは筆舌し難き景観であっただろう。ここで昼食。下りて、地蔵峰寺の石地蔵を拝観する。この日本最大といわれるにふさわしい石地蔵は鎌倉時代の作である。伊野の名工、四代目行経の傑作である。行経は、ひとつの巨岩をくりぬいてこの作品をものにした。美しい線形とやわらかな地蔵の顔がやや厚めの光背に反射し、名状し難い救い、柔和さを演出している。光背の裏に製作者の名と制作日が鮮やかな書体で刻印されているのも珍しい。地蔵とは本来、地獄に向かって救いの手を差し伸べる仏である。子供が親より先に死すると皆例外なく地獄に落ちる。親を悲しませた罪による。そして、その親が立ち直って絶望から脱却したときに地蔵はその手を差し伸べ子供を地獄から極楽へと引き上げる。昔の人はそう考えたのである。地蔵信仰は子が親よりも先に死ぬという救い難い悲劇が多く起こった事実を物語っている。

（つづく）

◆地蔵峰寺の石地蔵

〈著者プロフィール〉
Mori&Associates代表。
環境・廃棄物調査等。その他海外／国内の広告・マーケティング調査。太極拳講師。

大室了晧 コラム ボケなど怖くない

「この年になっても元気ですし、若い人達も良くしてくれますので感謝していますが、夜中に目覚めて考え出しますと眠れません」

「何を考え出すんですか」

「ボケたらどうしようかと」

「ボケるのは三パーセントほどの人と言いますし、あなたのご両親は八十歳すぎて意識も明瞭で大往生でしたから、心配なさらなくとも」

「私よりお若いご近所の方のボケを見まして、急に不安になってダメなんです」

老人ホームの人達の多くが、ボケるのが怖いと言っているそうだから、この人の心配も無理はない。そこで話した。

ボケたら正常の判断ができない。自分の居る処も、家族の顔さえもまた人への迷惑も一切分からなくなってしまう。

そして世俗の苦労など全て無くなるからだろうか、不思議とそれなりの穏やかな顔になってくるようだ。

また死の恐怖もなく、殆どの人が恍惚の内に最後を迎えている。

ボケた人達と会い、世の苦労もしないその姿を見て羨ましいとさえ思った、と。

そして問答の末に繰り返した。

「安心してボケなさいよ。世話する若い人のことが心配なら、それなりの物をしっかりと残しておく。あの世まで持っていけないんですから。また家の人を優しく大事にする。それができれば悩むことはない。ボケよどうぞ、と思いなさい」

連　載

会いたい人

関 容子

篠田正浩さん

撮影／タカオカ邦彦

2

あるとき司馬遼太郎さんから、「篠田の撮る映画は暗い」と言われたことがあると聞いたが、その暗さはどこから来るのだろうか。

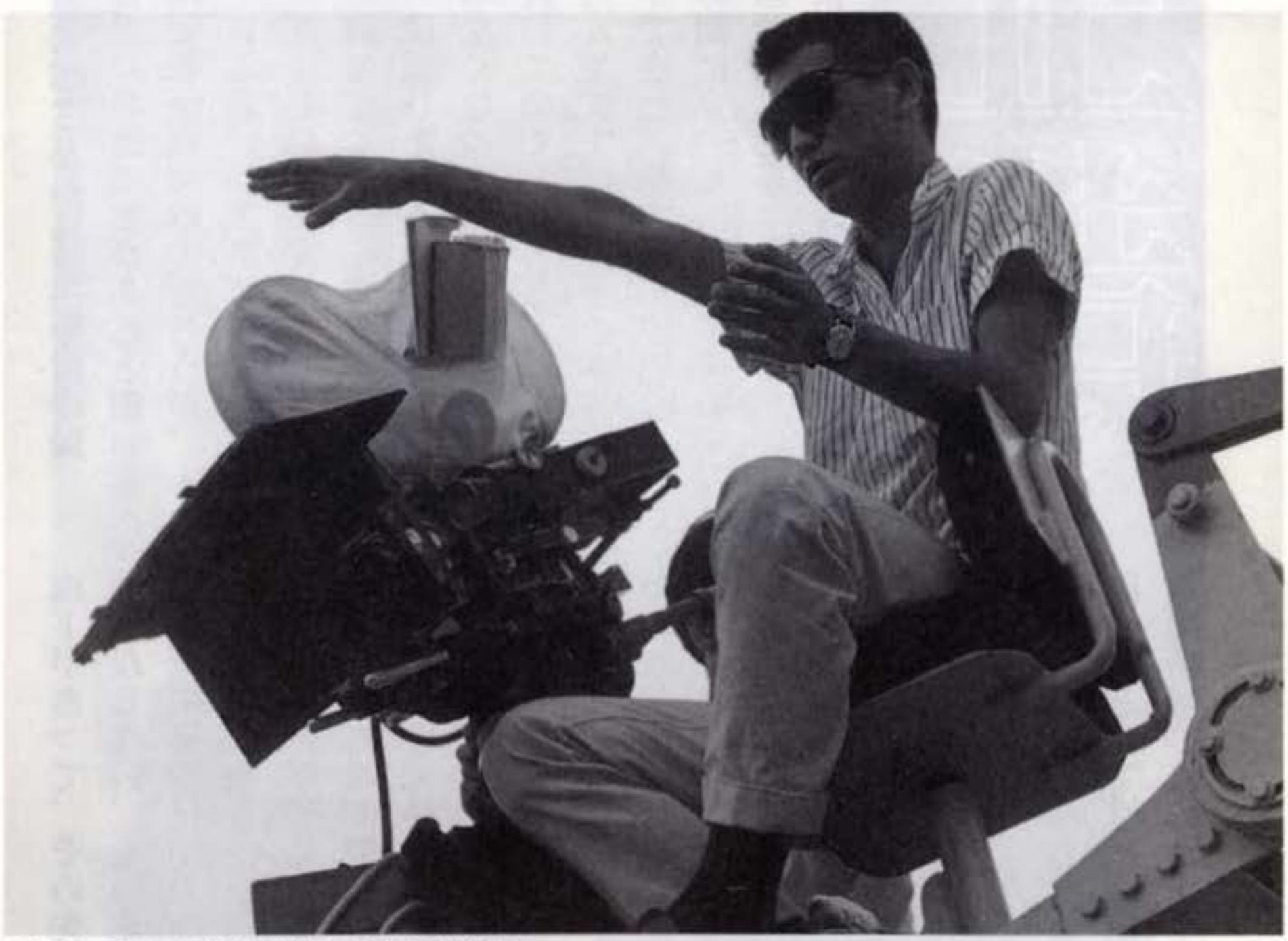
「明るい物を見ていると、じゃあ暗くなったときはどうするんだ、という不安があるからです。母は五十四歳で亡くなるんですが、そのとき私は二十二歳でした。そのころ、母が突然この世からいなくなっても、今見てるこの景色は同じに続いていくんだろうか、という恐怖に駆られたんですよ。多分そこから暗さに対する興味ができた。総て滅んでいくんだったら、滅びの側に立ったほうが、魂の安らぎがある、と思ったんでしょうね」

篠田さんは子供のころ、大きな家の中での自分の世界は母親さえいてくれれば何でも間に合う、と思っていた。当時は幼稚園などはあまりない時代で、社会に対応する訓練もまったくないままに小学校入学の日を迎えたという。

「母親に連れられて小学校へ行ったら、長い廊下があって、その先の教室に一人で座らなきゃならない、というのは恐怖でした。他人と話をする方法が見つからない、という恐怖から、私は吃りの少年になるわけです」

その吃音が治るのは、前に書いた母親と二人で行った映画館の中。

「映画の中では恋愛をするから、それを見て真似して不良になるといけないからこれからはあまり見せられない、というんで、中学に上る前に、岐阜の柳ケ瀬という町の映画館に母親と二人で行って黒澤明の『姿三四郎』を見たんです。久し振りに母親とぼくと二人で暗い客席に座ったら、外界からまったく遮断された感じがした。映画館ていいね、お母さん、って言ったら母親が、正浩、ここは大晦日になると借金取りから逃げてくるところよ、って言った。なるほど、映画館という装置は、呻いている民衆が逃げ込む場所だし、ぼくにとっては社会の緊張から隔絶される避難場所だったのか……とわかって、それで吃



1960年「乾いた湖」撮影中の篠田正浩監督

りがいっぺんに治りました（笑）」

篠田さんが中学生になっても見続けた映画は、『若き日の信長』『あとに続くを信ず』『加藤隼戦闘隊』など、戦時色の濃いものばかりで、恋愛映画はほとんどなく、従って不良少年にもならなかった。

それにしても、吃音になったのも、治ったのも、そして根暗になったのも母親のせい……というのが何だか可愛らしい。

大学時代、陸上部に入り、名門早稲田の駅伝でめざましい活躍をしたのに、篠田さんはアキレス腱を切って一年で引退した。それからは本来の演劇科の学生らしく、近松門左衛門研究に正面から向き合っていった。

「のちに作った『心中天網島』は、学生時代からの研究課題への論文みたいなものですよ。近松門左衛門という人が孫悟空の分身術のように、パーッと分身化して大勢の黒子という存在になっていく……」

歌舞伎や文楽では蔭の存在であり、見えないものという約束ごとになっている黒子を、堂々と表面に出してしまう斬新な手法の映像に、当時みんなが瞠目させられた。その後、浅利慶太演出による『蝶々夫人』のミラノ・スカラ座上演とか、串田和美演出による『夏祭浪花鑑』の渋谷・コクーンやニューヨーク・中村座の上演とかで、派手に黒子が使われるのを観たとき、私はすぐに篠田さんの映画の場面を思い浮かべた。

「アンジェイ・ワイダがドストエフスキーの『悪霊』を舞台化するとき、あの黒子の手法を使わせてくれますか、と言ってきたので、ぼくは著作権を主張する気はありません、日本の歌舞伎や文楽にはいくらでも黒子は出てきます、って答えましたけどね」

篠田さんの早稲田時代、同級にはのちにNHKに入る和田勉、舞踊家の花柳芳次郎、国文科には狂言師の野村万作などもいたが、避けて通れない同級生は詩人の白石かずこだろう。

「まあ、最初の恋愛の相手ですからね。彼女の交友関係で私は寺山修司や谷川俊太郎と知り合ったわけですから、その意味でも大変な出会いだった。とにかく彼女は在学中から詩集を出していて、圧倒的な才能の持ち主でした」

その詩集『卵のふる町』は、「青いレタスの淵で休んでいると　卵がふってくる……」というユニークな一行で始まる。当時女子学生は少なかったはずで、大勢のライバルがいただろうに、やはり篠田さんはもてる。

「いや、この人をこのまま一人にしといちゃ可哀そうだと思っただけですよ。大学を卒業して松竹に入社すると同時に結婚しました」

その当時、優秀な学生は競って映画界をめざし、松竹大船撮影所が五人採用するのに対して応募者は三千人。

「結局は八人採用してくれたんですが、それでも四百倍近い競争率ですからね。このときの同期が、のちに直木賞作家になる高橋治。一期下に大島渚、山田洋次、その翌年に石堂淑郎や吉田喜重、もう少しあとで山田太一が入ってきました」

入社してすぐに四人編成の助監督チームの「フォース」になる。

「カチンコを打つのはいきなりやらされました。履物の調達もフォースの役で、草履取りみたいなものですね（笑）。サードになると現場を走り回って司令塔みたいな役。セカンドは衣装小道具の係。このとき森英恵さんからずいぶん洋服について学びました。助監時代はメロドラマでも何でもプログラムピクチャーの監督について、一年に十三本もついたことがあります。駅伝で鍛えてますから使い勝手がよかったんでしょう。小津組、木下組、渋谷組なんていうところは、すっかりもうメンバーが決まってますから、ついたことはなかったですね」

最初の結婚は七年間で破綻した。

「白石を無視して寺山と仕事を組むことで、つらい思いをさせたんじゃないか、とも思う。

「三味線とオートバイ」（1961年監督作品）での演技指導の様子

私はスポーティーな人間で、生活のリズムをきちんと守りたいほうだけど、食卓で詩を書いてたりする姿を見ると、気の毒になってくる。才能のある人だけに、ぼくが拘束するのは、悪いことに思えてね。向こうはそうは思ってなかったと思うけど」

白石かずこはその後、詩の朗読とジャズの即興演奏など、世界的規模で活躍し、数々の賞を受けている。二人の間の女の子は、今、ロンドンのモダン・アートの世界で有名な存在となり、さらに素敵なことには、父親の二度目の結婚で生まれた異母妹とも仲よくつきあっている、ということだ。

篠田さんの監督デヴュー第一作は昭和三十五年の『恋の片道切符』。ニール・セダカのヒット曲を平尾昌章が歌い、小坂一也も出演している。

「撮影所で脚本のコンクールがあって、大島渚とぼくが一位を分け合った。大島はのちにそれを『青春残酷物語』という映画にしてますよ。ぼくのは、進駐軍に歌手(プレーヤー)を送り込むブローカーの世界がモデル。しがないバンドマンの手にピストルが渡って、ロカビリーでスターになった男のいるステージに向ってなぜか引金を引いてしまう、という不条理劇です」

この二つのシナリオが雑誌に載って、それが武満徹の目にとまる。

「撮影所に、篠田と大島というヘンなやつがいるぞ、って言ってたそうです(笑)。それが武満と知り合うキッカケです」

第二作は、同じ年に撮った『乾いた湖』。「二十四歳の寺山修司と、神楽坂の川田旅館という、あきれたボーイズの川田晴久の奥さんが経営している旅館にこもって脚本書いてた。寺山は貧乏詩人だったからそんなところでも嬉しくて仕方なかったようです。こっちも新人監督で予算がないから新人女優を使おうということになって。学生運動をやってるような女子学生の役ですからね。それでオー

ディションをして、七、八人だったかな、その旅館に来てもらって、その一人に岩下志麻がいたんです。あ、この子ですね、って言ったら、寺山も、そうだよ、この子だよ、って（笑）」

この新人は既にNHKのドラマ『バス通り裏』で人気を得ていたが、映画デヴューはこの作品だった。

その後はたて続けに岩下志麻が主演する。『夕日に赤い俺の顔』『わが恋の旅路』『燃ゆる若者たち』……。

「それでも別に何ともありませんでしたよ（笑）。松竹はぼくの映画でデヴューした彼女に目をつけて『あの波の果てまで』というメロドラマに起用してスターにしていったんです。その後小津さんの『秋刀魚の味』のヒロインにも抜擢されて、原節子のあとは岩下が、ということになっていくわけなんです」

ここでアヴァンギャルドの監督と、メロドラマの大スターは二筋道に分かれるはず……だった。

「ぼくがその後、池部良と加賀まりこで撮った『乾いた花』という作品を、松竹は一年くらいおクラにしてたんですけど、公開したら大ヒットしたんで、篠田、何でも好きなの撮っていいよ、って会社に言われて、司馬さんの原作の『暗殺』。新選組の清河八郎を丹波哲郎主演で撮りたいと思うと言ったら、野郎ばかりの配役で色どりがないから岩下に特別出演させたら……って推せんしてきた。あのころと違って今の岩下が果たして出るかな、とぼくは考えてたんですけどね」

するとある晩、大スターは直接監督に電話をかけてくる。

「役が小さいから、ってみんなが言ってるんですけど、私は出ますから、って、そういう電話でした。ぼくは映画撮ってるときに俳優と酒飲んだりするの大嫌いなんですが、京都にロケに行ったとき、二人で初めて酒を飲みました。あれがいけなかったかな（笑）」

（つづく）

仏をうらむる事は、あるまじき事にて候な。仏をうらむる事なかれ。信ある物は大罪すら滅す、信なき物は小罪だにも滅せず、わが信のなき事をはずべし。

【百四十五箇条問答】

仏さまを恨むなど、してはならないことでしょうね。

お答えします。どのような理由があっても、仏さまを恨んだりしてはなりません。

信心の篤い人は重い罪ですら滅していただけますが、信心の浅い人は軽い罪すら滅してはいただけません。自分に信心が欠けていることを恥じるべきです。

如月の昼下がり

平成十七年二月某日、某寺。うららかな午後。周辺をうろつく、破仏法を企てるような邪な輩に、長年監視の目を光らせてきた仁王の会話…。

※（阿）は阿形像、（吽）は吽形像。

（阿）しかし、このお寺にも、お正月にはずいぶん大勢の人が初詣でにやってきたな。トップは今年も東京の明治神宮、警察庁の調べでは三が日で三百十万人だったらしいよ。「大勢」なんて言葉じゃ、そのすごさは表現できないな。なにせ、東京都の人口が約千二百五十万人、ということはその四人に一人が出掛けた計算、驚いちゃうよ。神主さんや巫女さんももちろんだけど、神さまもさぞやお忙しかっただろうね。お疲れが出ないようにしてもらわないと…。

（吽）ホント。景気の動向と参詣者の数は微妙な関係にあるようだけど…。まあ、なんにしても神仏に掌を合わせるのは悪いことじゃないから結構だけどね。

（阿）それにしても、人の願いってものは多種多様だね。去年は台風や集中豪雨、地震、大津波と大災害が重なったし、まだ止みそうもない各地の紛争なんかで多くの人が亡くなったから、その冥福を祈ってた人もいたね。我々もあらためて後生安楽を祈ろう。

(吽) 景気回復、家庭円満、病気平癒、受験合格など、諸願成就を祈ってた人もずいぶんいたね。というより、ほとんどがそうした願いだったような気がするけど…。今年の目標と、努力を誓ってた野球選手もいたな。成就を見守ろう。

(阿) 人によって祈りの度合いもずいぶん違ってたな。たんに「年頭のイベント」的にやってきたような人もずいぶんいたもの。もちろん、本当に切羽詰まって「もはや頼みは神仏のみ」と、真剣に祈ってた人もたくさんいたけどね。

(吽) まあ、どっちがいいかなんてこと、ご本尊さまの前で我々がとやかくいうつもりもないけど。ただし、たとえ願いが叶わなくっても、神仏を逆恨みするのだけはよしてほしいね。そりゃあ、筋違いってもんだ。

(阿) まったく。このお寺の宗派を開いた法然上人も、「それは絶対にいかん!」とおっしゃっていたらしい。

(吽) いかん、って言えば、とんでもないのがいたらしいぞ。

(阿) ああ、知ってる。境内の露店でニセ札使ったヤツだろう。そもそも、ニセ札なんて造ること自体、とんでもないのに、こともあろうに神聖な神社仏閣の境内で使うとは…。このお寺にはそのテは来なかったけどな。

(吽) パソコンやプリンターの性能が上がるのは結構だが、こんなことに使われたんじゃ、製造側もいい迷惑だ。店の人も驚いただろうな。五百円のたこ焼きにニセの一万円札出されて、九千五百円のおつり。大赤字だ！　気の毒に…。

(阿) それだけじゃない。お札やお守りの授与所で使ったのもいたらしい。見上げた度胸だ。ニセ札渡した手でお札を受け取って、いったいどんな思いだったのか…。あれだけやさしいウチのご本尊さまも、さすがに渋いお顔をされてたよ。

(吽) こうなると、「願いが叶わなかったから神仏を恨む」なんて以前の話だ。はじめから祈るつもりなんかないどころか、詐欺をはたらきにやってきたんだからな。冒瀆だ！　我々で少し懲らしめるか！

(阿) まあ、そのあたりは当該神社の神さまにおまかせしよう。うちのご本尊さまだったら…。

(吽) やさしいからねぇ…。

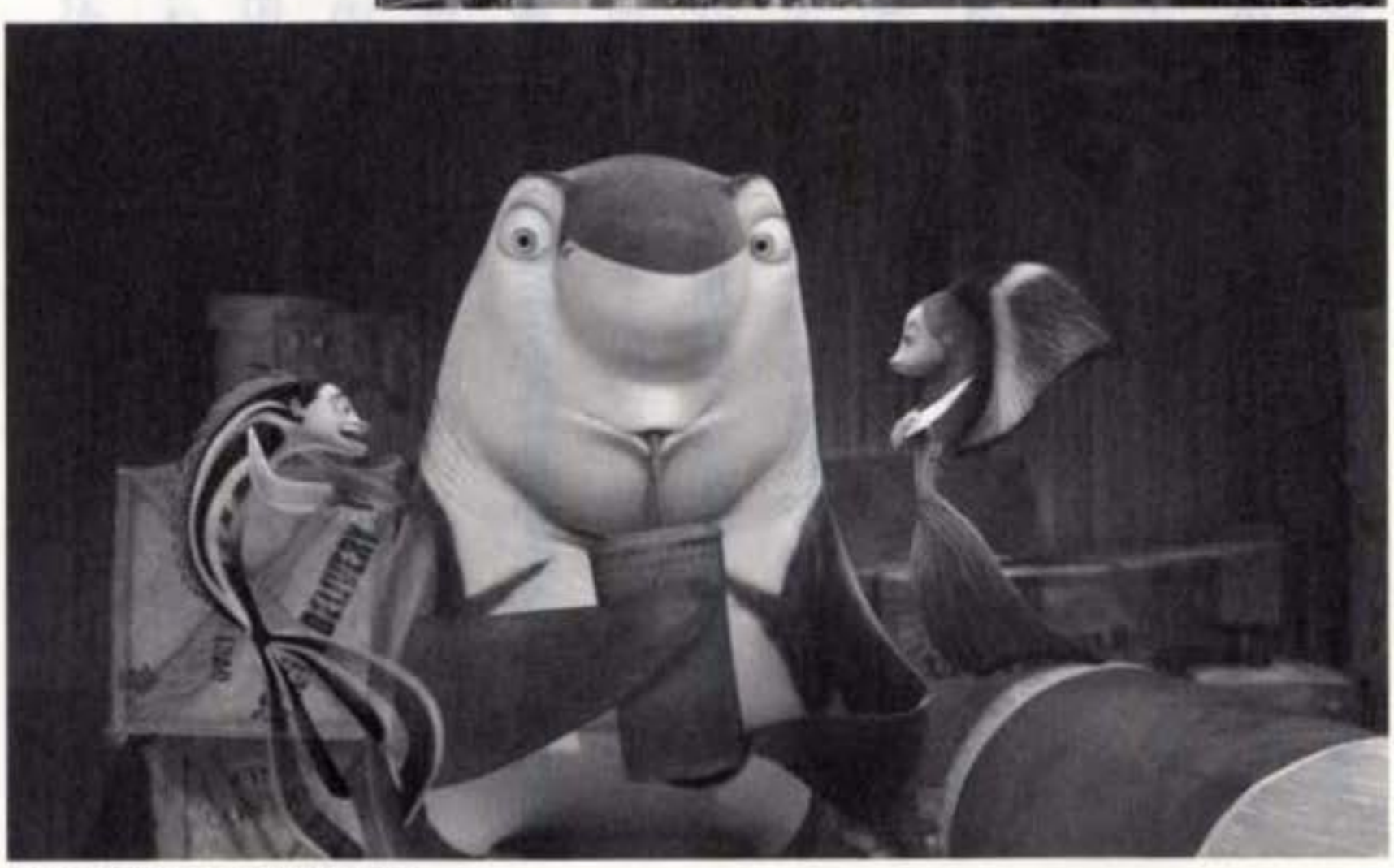
(阿) さ、そろそろ我々も本来の業務に戻ろう。邪な輩が入ってこないように。

(吽) ウン、そうしよう。

(小村　正孝)

シャーク・テール

ドリームワークスアニメーション



TM and ©2004 DreamWorks, L.L.C.

憚りながら、「世界に共生を！」と訴える『浄土宗二十一世紀劈頭宣言』起草者の一人として、また平成十六年度『浄土宗総合学術大会』のシンポジウム「共生の実践」のレジュメを「黒川紀章氏とともに〈共生〉の英訳語として〈シンバイオシス〉を提言したい」と結んだパネリストとして、自然界の〈共生〉には格段の思い入れがある。

だから古くから例示される「相利共生」「片利共生」に加えて、汚染問題がらみで脚光を浴びつつある「浄化共生」の魚界チャンピオン、ホンソメワケベラをヒーローに選んだ『シャーク・テイル』製作者たちの見識に、先ずは敬意を表したい。

小沢正昭『共生の科学』に「寄生虫にやられたり、傷を受けた魚がつねにホンソメワケベラの棲家に集まって来る……（かれらの）身体に寄生している寄生虫やカビの菌体を餌として消化吸収して利用している」と紹介される、この魚の習性にふさわしくホンソメワケベラのオスカーは、魚たちの大都会「リーフシティ」ダウンタウンの外れにハリセンボンのサイクスが経営する、洗車場ならぬ洗鯨場に勤務する舌垢清掃の達人で、事務員のエンゼルフィッシュ・アンジーとの間にほのかな愛が芽生えているが、事態は急転する。

ひょんなことから、ジョン・フォード晩年の珠玉『リバティ・バランスを射った男』のランス・ストッダートの如く、オスカーは「シャーク・スレイヤー」に祭り上げられ、リーフシティ内あらゆるTVチャンネルの人気CMキャラクターとして、アップタウンのコンドミニアム最上階に住むセレブに出世。富を目当てにアタックを仕掛ける妖艶ミノカサゴローラにメロメロというていたらく――ここらで「ひょんなこと」の仔細を明かすと……。

平和と繁栄を享受するリーフシティ全魚の唯一の気掛りはサメの襲来。突如発せられる「サメ警報」と共に市街から一斉に魚影をひそめる。サメどもの首領・ホオジロザメのド

ン・リノは『ゴッドファーザー』のドン・コルレオーネ同様、後継者問題に悩みがある。兄のフランキーはコルレオーネ家の長男ソニーさながら蛮勇にすぎる。弟のレニーはといえば、なんとヴェジタリアンなのだ。

思えば手塚治虫『ジャングル大帝』のレオもヴェジタリアンだが、父パンジャは息子の出生まえに人間の兇弾に斃（たお）れたので、息子の奇癖に悩まされずに済んだ。以って瞑すべきであろう。

さて殊勝にも「パパを喜ばせるために」フランキーは弟をまともなサメに錬成すべく修羅場に連れ出し、恰好の標的と選んだオスカーに跳び掛った瞬間、偶然頭上に錨が沈下し非業の死を遂げる。かれの巻き起こした大砂塵が落ち着いた海底からヨロヨロ立ち上がるオスカーを目撃したデンキクラゲ・アーニーとバーニーの錯覚から「シャーク・スレイヤー」の虚名が立つ。

おめおめ家に帰れぬレニーと虚名の重荷に苦しむオスカーの間に「共生」が始まる。プロレス顔負けの八百長試合によって、レニーは群を離れて草食生活を続けることが、オスカーもまた虚名を恣（ほしいまま）にすることができる。しかし、こんなイカサマが長続きする筈もない。

お気付きのとおり、このアニメの特色の一つは「パロディ」である。そもそもオープニングからして「ドリーム・ワークス社」のいつものトレードマーク「三日月の端を腰掛けに釣糸を垂れる人物」から糸が下方に伸びて水中に及ぶ。先端の針に掛けられたミミズのクローズ・アップ。その背景に迫るジョーズ。観念の眼を閉じようとするミミズに、自分がヴェジタリアンであることを告白するのが、準主役（題名からいえば主役）のレニーだ。

もう一つの特色、豪華絢爛たるヴォイス・キャストの面々、かれら自体がパロディとなる。表情、体型、身振り等々あらゆる身体的特徴が、絶妙なるCG処理の成果として見事

に「魚化」される。（尤も筆者などは、デ・ニーロ、スコセッシ両巨頭が「魚化」されたサメとハリセンボンの迫真性から、他を推量するに止まるのだが）

パロディの真骨頂は似ても似つかぬ対象間にビミョーな共通点を察知し、奇想天外なスタイルに具象化する点にある。たとえば南伸坊『本人の人々』が発射する「顔面模写70発」の一発ごとの抱腹絶倒パワーは、本人のあのオニギリ頭からタマちゃんや梅宮アンナが再現される落差の克服にある。魚たちが名だたる名優たちに似ているのだ。

さてパロディ文学の偉大なる古典『不思議の国のアリス』の一頁を占める尻尾（テイル）の型に描かれた物語（テイル）の顰（ひそ）みに習って尻尾（テイル）を付け加えるならば、協約に基いて「捕食自粛」を誓ったサメたちは、レオの仲間たちと共にヴェジタリアンの道を進むことになるのだろうか。それは不自然であるに違いないが、草食動物たる牛の飼料に羊の脳を混入する行為の不自然さよりは、崇高なる選択ではないだろうか。

サメの尻尾（テイル）は二つに分かれている。右の如きこちたき論議はさておいて、左の如く目も彩なファンタスティック・ミュージカル・アニメとして海底都市を遊泳するほうが、この物語（テイル）にふさわしい鑑賞法なのかもしれない。

長野・十念寺住職

2005年春休み　丸の内ルーブルほか
全国松竹・東急系にて拡大ロードショー

TM and ©2004 DreamWorks, L.L.C.

ヴォイス・キャスト
ウィル・スミス　ロバート・デ・ニーロ
レネー・セルヴィーガー　アンジェリナ・ジョリー
マーティン・スコセッシ　ジャック・ブラックほか

日本酒のことば 日本酒のじかん

その五 郷里の酒 香露酵母

ちょっと大きな酒屋さんに行けば、全国各地の日本酒が簡単に手に入る昨今。地酒という言葉が本来持っていた意味も、ついつい忘れがちになってしまいます。しかし先日、この地酒の有難みをしみじみ味わえる機会を得ました。それは、東京・目黒区のとある寺院のご住職夫妻が開いてくださった昨年の忘年会でのことでした。

ご住職夫妻と私は、じつは約二年前からの太極拳愛好仲間。当日集まったメンバー、MさんやFさんらも、同じクラスで出会った仲間達です。「僕の郷里の熊本から日本一おいしい鴨鍋と地酒が届きますので、よろしかったらぜひどうぞ」というA住職のご好意に甘え、いそいそと集まった私達の目の前には、無農薬水田ですくすく育てられた養生鴨を使った鴨肉・鴨団子のみならず秘伝のダシ汁がまた絶品の鴨鍋（熊本県菊池郡泗水町の仕出し屋『菊野屋』の養生鴨鍋）をはじめ、奥様お手製のニンニク味噌（十五年もの）と丸ごとキャベツ、イナゴの佃煮（住職イチオシの佃島の佃煮屋『天安』のもの）など、ご夫妻の心尽くしのご馳走が並んでいます。さらに、住職の徒弟が送ってくださったという熊本の地酒も、圧巻でした。「霊山」「瑞鷹」「千代の園」「菊の城」、そして、日本全国の吟醸酒の歴史を大きく変えたといわれる

藤原理加

〝熊本酵母＝協会9号酵母（香露酵母とも呼ばれる）〟の誕生蔵としても名高い熊本県酒造研究所の銘酒「香露」。テーブル上にずらりと並べられたそれら五本の一升瓶は次々と栓が開けられ、宴席はたちまち愉しい利き酒大会ともなりました。皆で一本一本のラベルを読み上げ、住職からその酒蔵がある土地の様子を教わり、そして味わう。もちろんそれぞれ味も酒質も違いますが、どの酒も、いわゆる表面的な「旨い」という言葉を越えた、温かく優しい味わいを届けてくれました。

そんな素敵な〝郷里の地酒〟に心地良く酔い、鴨鍋の締めの絶品うどんすきをたらふくいただいて上機嫌になった皆は、なんと食後に太極拳の練習まで始めてしまいました。これってホントの酔拳だよなあ、でもみんな飲んでよくやるよなあ、本当に好きなんだなあと、私ではまだぬる燗を飲み続けつつ太極拳に興じる皆の姿を眺めていると、ふっと、かつて大尊敬する佐賀県のM杜氏さんからいただいた言葉を思い出しました。「日本酒は頭で飲むんじゃない、肚で飲むものだ」。そういえば、太極拳も肚（＝丹田）が重要でした。

全国浄土宗青年会　主催

第１回大別時念仏会　開催のお知らせ

全国浄土宗青年会
理事長　江口　隆定

聖名十称

私ども全国浄土宗青年会では、法然上人800年大遠忌を６年後にひかえ、毎年一度づつ、全国の本山名刹寺院にて大別時念仏会を発願いたしました。

第１回の大別時念仏会は、上人ご生誕の地、岡山誕生寺にて開催させていただきます。当日は、「お会式（二十五菩薩練供養）」の中で、僧俗一体、そして堂内いっぱいに響き渡る、大きな念仏をお称えしようと計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。　合掌

記

■開催日時：平成17年４月17日（日）

午後３時より４時まで（受付は12時30分より）

■会　　場：浄土宗特別寺院　誕生寺

http://www.d3.dion.ne.jp/~tanjoji/

岡山県久米郡久米南町里方808　JR岡山より約１時間

■参 加 費：無料

16日宿泊・交通手段などご希望の方にはご紹介いたします。

■申し込み・問い合わせ：全浄青専任幹事　清水道隆（しみずみちたか）まで

日程など、詳しい資料をお送りいたします。

携帯電話　090-1116-0471

メールAND09856@nifty.com

FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウォッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

FORUM 浄土の広場

〈特選〉

●森くとどろく神鼓朝の霜

薗田　郁子

社殿の扉のきしむ音から一日が始まる。距離によって祝詞の声は聞こえなくても、神鼓の響きはよく伝わる。霜の朝の澄んだ空気ではなおさらである。身の引き締まる思いでいるのだろう。

〈佳作〉

貸別荘森の芽吹きに点在す　金谷　友江

あかときの森ひんやりと秋の蝶　河合富美枝

森深くちゃぼの声して冬の宮　増田　信子

〈特選〉

●中マフラーの中の口笛跨線橋

野村　雄治

懐手などして跨線橋を渡る。口笛を吹きながら来たのだが、橋の上の寒さにマフラーを顔の半ばまで引き上げる。口笛はその内にこ

もる。その下を電車が音を立ててゆく。風についつい足早になる。

〈佳作〉中島富士子

喧嘩独楽真っ只中に孤立せり

〈佳作〉内藤　隼人

目の中に残る駅伝走者あり

〈佳作〉山口　信子

ゲーム機に夢中の子供年の市

●自由題

〈特選〉

白菜の縦割りの腹みせて干す

寺下　忠至

漬物にする白菜を干す。まず縦割りにすると、それを一つ一つ日なたに並べてゆく。切り口を上にしてゆくのを、「縦割りの腹見せて」というのは面白い表現である。あとはぬかと塩かげんである。

〈佳作〉山本美代子

庭師来て空ひろびろとして帰る

〈佳作〉有森多美子

うすあおきにんげんのむれ除夜の鐘

〈佳作〉吉﨑美和子

冬紅葉湾見下ろして足湯かな

参加作品……編集部選

森　山本美代子

巣消えて鎮守の森は神ひとり

お降りや森抜けて来し郵便屋　中島富士子

森しずか露草にそっと話しかけ　堀　菅子

森分ける一本の道冬桜　山口　信子

冬の雨森も岬も鎮まりぬ　石原　新

中　周東　澄江

中の島夫婦の鴨のめぐりけり

黄落や途中下車して旅最中　佐藤　雅子

中折帽参賀の列に父偲ぶ　大場　清

初夢の中のくらしの父母祖父母　片桐てい女

中庭の亡き母植えし八重椿　金谷　友江

中指を反らしマニキュア冬の旅　石原　新

口中に芳せ残る蕪汁　河合冨美枝

自由題

校庭のおしくらまんじゅ海の青　谷　しげ子

夕鴨にこぼれ魚撒く漁夫かな　河合冨美枝

犬猫の名も連ねたる賀状来る　中島富士子

桁が入りて大きな熊手の決まりけり　周東　澄江

焚火の輪人を呼び込む島言葉　池田　伊吹

山の音風の音澄む炭焼き場　増田　信子

浄土誌上句会のお知らせ

前記自由題

題　㊟季語ではありません

締切・二〇〇五年二月二十日

発表・『浄土』二〇〇五年五月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

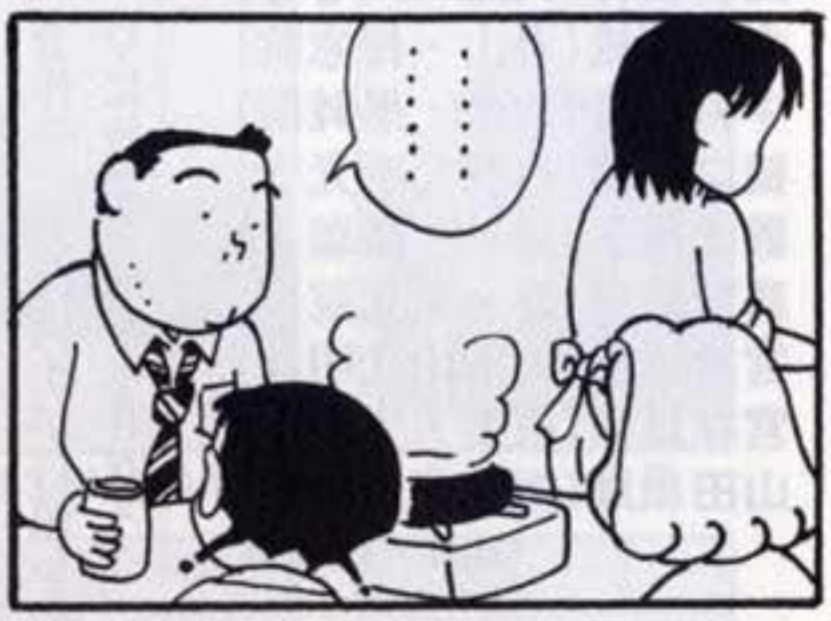
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館内

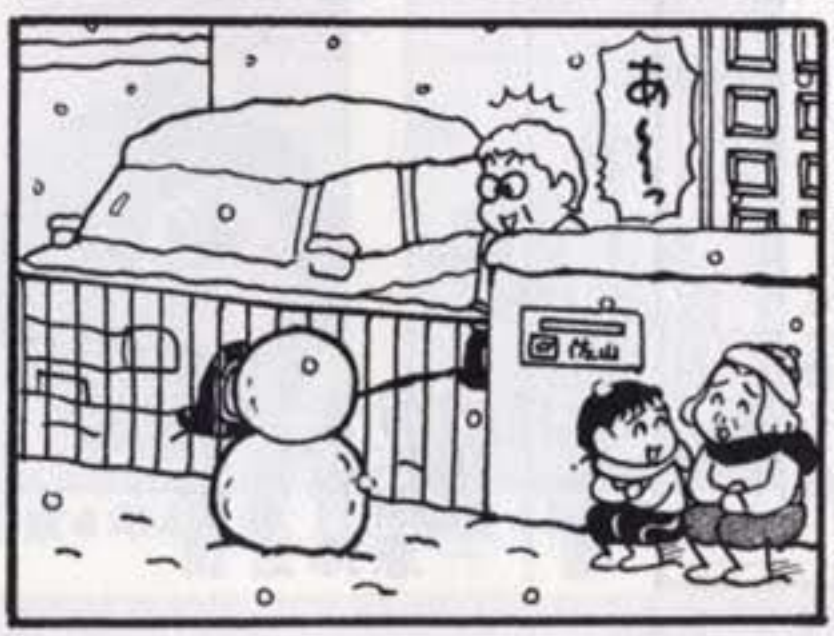
月刊『浄土』誌上句会係

さっちゃんはネッ

18かい目

かまちゃよしろう





編集後記

赤鬼と仲良く豆まき福は内

岱潤

昨年末、奈良市の女子誘拐殺人犯人が逮捕された。事件後再犯におびえていた地域の住民にとっては、さぞやほっとしたことだろうと思う。そしてその犯人が二度の逮捕歴を持つ者と聞き、もっと早い逮捕が可能ではないかと思われたが、その後の報道で、その地域に住む変質者が二〇〇人以上であり、それを一〇〇人以下に絞り込むのに一ヶ月かかり、それを十人以下にして、一人に確定したのに二ヶ月を有したという説明を聞き納得した。

しかし、同時に限られた地域に変質者が二〇〇人以上いるという警察OBの説明に驚いてしまった。警察はどういう人間までを変質者と見ているのであろうか。刑期を終えた性犯罪者がそんなにいるのであろうか。そしてマスコミはアメリカ、イギリスにならって刑期を終えた性犯罪者の氏名、住所、顔写真の公表を論議しだした。

しかしこれは更正という考え方を全否定した意見だ。現在の保護観察のあり方には、保護司の力量だけに頼るという問題があり確かに改善の必要を感じるが、刑期を終えた人間の人権を無視する行動は是認できるはずがない。

刑罰主義ではなく、犯罪が起きない社会作り、人間同士が信頼しあえる社会作りに智慧を注ぐべきだろう。（長）

雑誌『浄土』
特別会員、維持会員の方々

巖谷勝正（目黒・祐天寺）
大田秀三（大本山清浄華院）
佐藤孝雄（鎌倉・高徳院）
佐藤成順（品川・願行寺）
佐藤良純（小石川・光円寺）
須藤隆仙（函館・称名寺）
袖山榮眞（長野・十念寺）
高口恭行（大阪・一心寺）
中島真成（青山・梅窓院）
中村眞道（仙台・愚鈍院）
樋口隆信（石巻・西光寺）
藤田得三（鴻巣・勝願寺）
真野龍海（芝・天光院）
宮林昭彦（大本山光明寺）
宮林雄彦（横浜・大光院）
山田和雄（諏訪・貞松院）

敬称略・五十音順

ホームページ　http://gekkan-jodo.info

編集チーフ　長谷川岱潤
編集スタッフ　斎藤豊光道　佐山哲郎　青木照憲　村田洋一
編集顧問　大室了晧

浄土　七十一巻二・三月号　頭価六百円　年会費六千円
昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
印刷　平成十七年　一月二十日
発行　平成十七年　二月一日
発行人　真野龍海
編集人　佐藤良純
印刷所　株式会社　シーティーイー
〒一〇五・〇〇一一
東京都港区芝公園四・七・四明照会館内
発行所　法然上人鑽仰会
電　話〇三（三五七八）六九四七
FAX〇三（三五七八）七〇三六
振　替〇〇一八〇・八・八二八七

月刊 浄土 もうすぐ800号

特別企画［表紙ライブラリー］

平成3年2月号

平成3年3月号

平成3年4月号

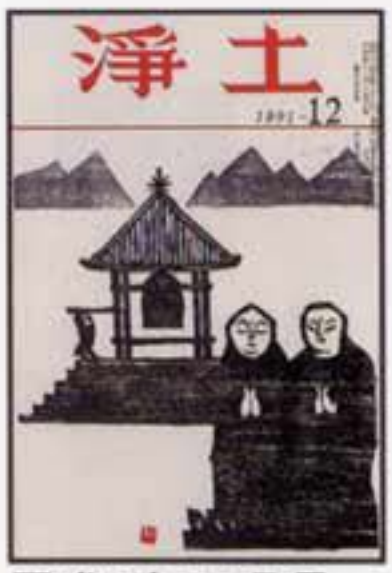
平成3年5月号

平成3年6・7月号

平成3年8・9月号

平成3年10月号

平成3年11月号



平成3年12月号

平成4年1月号

平成4年2月号

平成4年3月号

平成4年4月号

平成4年5月号

平成4年6月号

平成4年7月号

法然上人鑽仰会

※平成３年１月号が欠本となって居ります。お持ちの方がいらっしゃいましたら編集部にご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

monthly JŌDO 2005・2・3 発行人／真野龍海 編集人／佐藤良純 編集チーフ／長谷川岱潤

法然上人鑽仰会の本

『念佛讀本』完全復刻版
1,600円

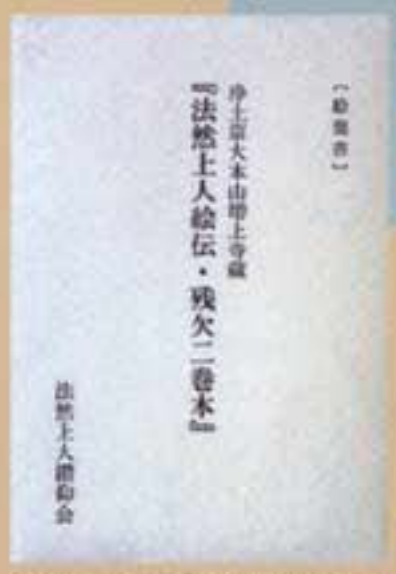
『差出人は法然さん』
600円

月刊『浄土』
バックナンバー

※額装寸法47×59cm

選擇集十六章之図（額入り）
『選擇集絵解き物語』含む
20,000円（別途梱抱料300円）

「法然上人絵伝絵葉書」
（8枚セット）800円



※浄土宗大本山増上寺蔵
「法然上人絵伝・残欠二巻本」より

委託販売

増補版『浄土への道
法然上人法語抄』
1,000円

『ブッダ
知れば知るほど』
1,000円

当会発行の書籍、雑誌のお求めは、当会へお申し込みください。なお、月刊『浄土』を除き価格に送料は含まれておりません。別途実費を申し受けます。

法然上人鑽仰会
電話／03-3578-6947
FAX／03-3578-7036